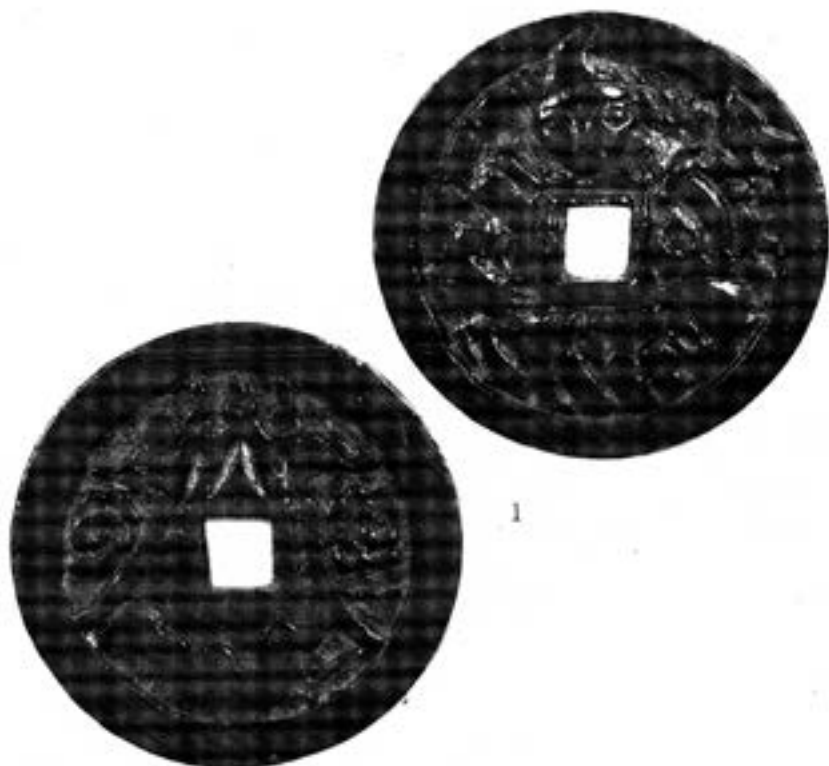


目次

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
泥面子	単独絵銭類・その他	南部方面絵銭	仙台絵銭	駒曳銭	宮銭類	福神絵銭	念仏・題目銭類	文字絵銭類	五位堂銭	紋切銭	鏡屋銭	打印銭	浅間銭	穴一銭	面子銭
148	141	133	128	117	110	99	94	88	78	72	57	48	40	19	6

3

浅間銭



ここに掲げた浅間銭と言われている絵銭は、全体的に見て両面銭が基本であり、表面には恵美須、大黒等の福神像のほかにも南蛮人、張良といった他の絵銭にあまり例を見ない図柄が採用され、背面には噴煙を上げている雄大な孤峰を描いている。

この浅間（あさま）銭の名称には、描かれている山の姿から富士、浅間（せんげん）神社に結びつけた浅間銭（あさません）説、上州浅間山を表わしたとする浅間銭（あさません）説等、いろいろ言い伝えが残されているが、現在は、銭面に描かれているのは富士山と認識されている。しかし、それを承知の上でなお古来からの愛称が捨て難く、現在も「あさません」の名で呼び親しまれている。

浅間銭の中には、表面が同じ図柄でありながら、背面のみ富士図とはまったく違う図柄のものも存在するが、それらのものも全体の雰囲気から浅間銭の仲間に入れられている。

これら浅間銭の一部を、隠れキリシタンと結びつける説もあるが、本来は、面子銭、穴一銭等と同一目的の線上で製作されたと考えるのが常識的である。他の絵銭に比べ小型銭が少なく、ほとんど大形絵銭から成り立っており、鑄造時期も類品中では比較的後期の作ではなからうか。

浅間銭 (一)

〔大惠美須・背浅間〕 1

〔大惠美須・背双魚〕 2

〔大惠美須・背双魚と宝珠〕 3

1、3の大惠美須は浅間銭の中で代表的な大型絵銭で見栄えがよく、立派な出来である。

面の惠美須像は小変化はあるものの皆同一系統であるが、背面のみ他の図柄を組み合わせた幾つかの種類が存在している。

〔惠美須・背樹雲〕 4

〔惠美須〕 5、6

5、6の惠美須銭は前出、面子銭(五)の1と2の類を元にして背面に富士山の図を取り込んだ浅間銭で、面子銭との繋りを知る恰好の資料と言えよう。



2



4



3



5



6

